

Center for International Education & Exchange

国際教育交流センター

 熊本県立大学
Prefectural University of Kumamoto

国際教育交流センター

Center for International Education & Exchange (CIEE)
(グローバル棟 2階)

〒862-8502 熊本市東区月出3丁目1番100号

TEL: 096-383-2929 (代表)

E-mail: ciee@pu-kumamoto.ac.jp

URL: <https://www.pu-kumamoto.ac.jp/>

開館時間

平日：午前8時30分から午後5時15分まで

※土・日曜日、祝日、振替休日及び年末年始は休業日です。



Think Globally, Act Locally.

地域に生き、世界に伸びる



ごあいさつ

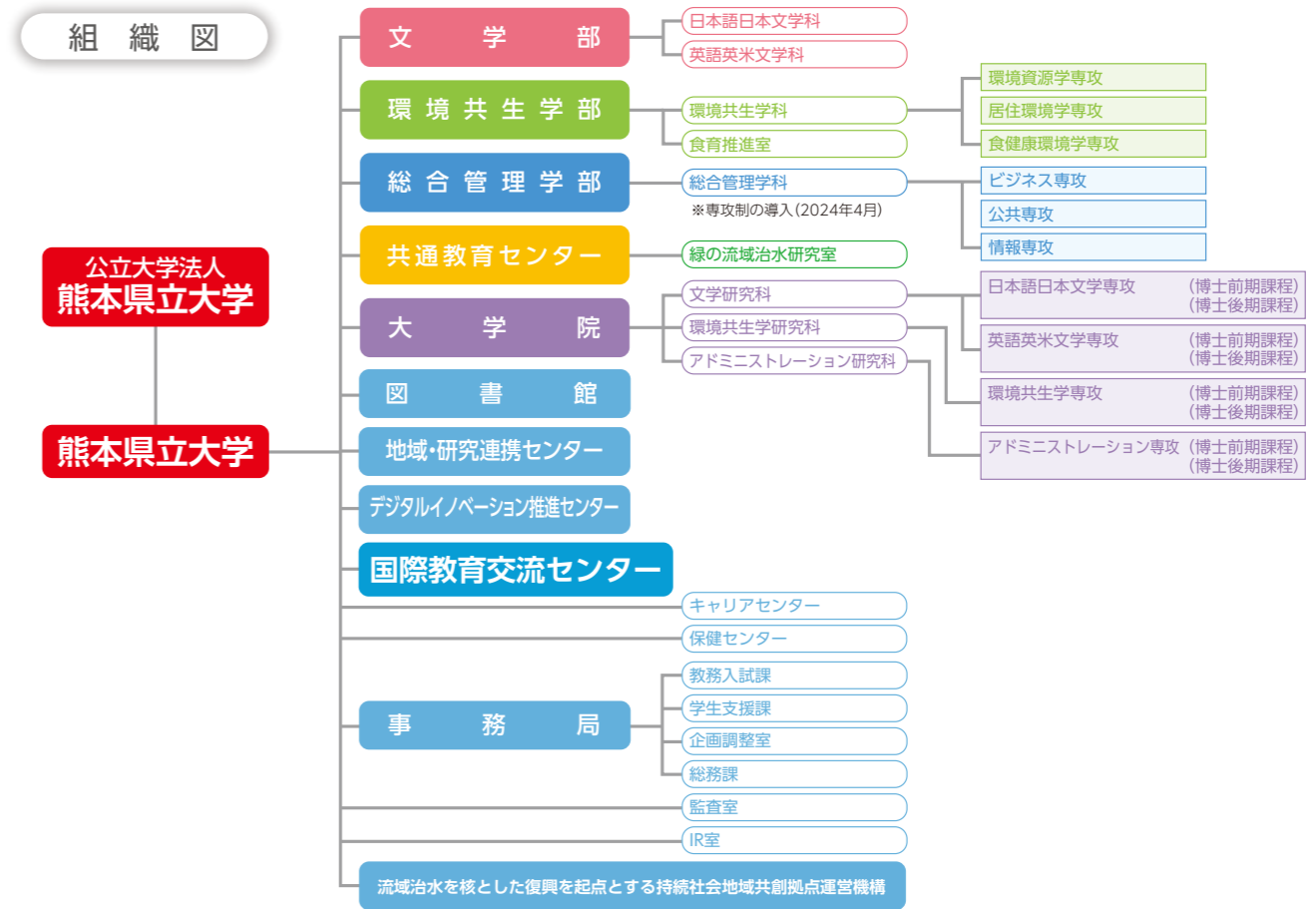
国際教育交流センターは令和2年(2020年)4月の設立と同時に、新型コロナウイルス感染拡大の影響で国際交流活動を制限せざるを得ない状況となり、すぐにオンラインを活用した研修等を企画、実施しました。さらに、デラサール大学(フィリピン)の附属機関とのESL(第二言語としての英語)プログラムに係る協定を新たに締結し、オンライン留学を実施するなど、総力を挙げて学生に学びの機会を提供してまいりました。令和5年度(2023年度)には、新型コロナウイルスの感染症法上の位置づけが5類に移行したことに伴い、中止していた全ての派遣プログラムを再開することができました。現在はオンラインという手段を残しつつ、渡航型による留学、研修を基本に、海外の大学生との国際交流イベントや語学学習等をハイブリッド形式で数多く行い着実に成果をあげています。

本センターでは、世界で通用するグローバル人材の育成のため、学生生活の中で異文化に触れる機会をより多く提供していきたいと考えており、本センター内に設けられたGlobal Loungeでの常駐コーディネーターによる英語チュータリングや国際交流イベント等を実施しています。また、本学の特徴である「もやいすとグローバル育成プログラム」(留学や海外インターンシップ等を含む)、更に大学院においても、専門教育とともに海外において国際協力・貢献活動を行う「高度グローバル人材育成プログラム」の実施を支援しています。

また本学の留学生に対しても、奨学金、留学生サポーター制度、住居費助成制度による経済的支援等、ワンストップでサポートを行っています。留学生が母国文化を紹介する「Café Event」、母国語講座を通じた本学学生との交流だけでなく、地域住民と繋がるインターナショナルフェスティバルの開催により、留学生のネットワークの拡大を支援しています。

国際教育交流センターは、本学のグローバル化推進の基幹組織として更なる発展を目指し様々な取り組みを行い、学生のサポートを充実させていきます。

国際教育交流センター
センター長 Jeffrey Stewart Morrow



国際教育交流センター概要

国際教育、国際交流、語学教育支援をワンストップで実施

国際教育交流センターは、国際教育、国際交流及び語学教育支援等に関する業務をワンストップで実施する組織として、グローバル人材の育成に取り組みます。

■主な業務

●国際教育の企画・調整

- 学部
 - もやいすとグローバル育成プログラム等の実施支援
- 大学院
 - 高度グローバル人材育成のための国際協力・貢献活動を終えた者の受入れ支援及び国際教育・貢献活動を組み込んだ大学院教育の実施支援

●国際交流の推進

- 海外協定校との交流
- 学生の留学及び受入れ留学生の支援 等

●語学教育の支援

- Global Loungeの運営
- 英会話等の指導(チュータリング)
- Café Eventの実施 等



授業「Moyaist Global Entry Training」



授業「もやいすとシニア(グローバル)育成」



インターナショナルフェスティバル



モンタナ州立大学ビルングス校での短期英語研修



Global LoungeでのCafé Event



留学説明会

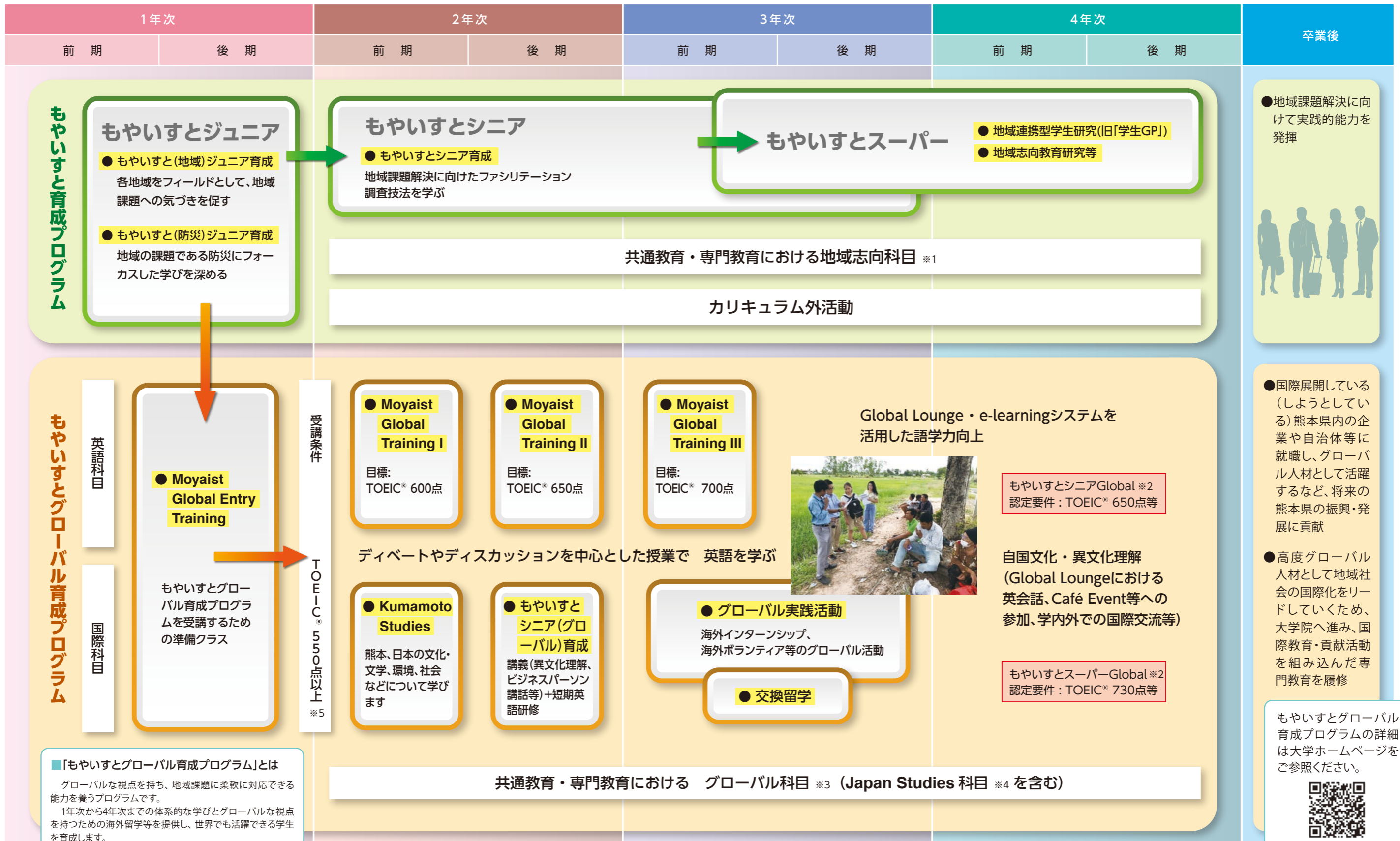
熊本県立大学における国際化の取組

国際教育・国際交流・語学教育支援の3本柱でグローバル人材を育成

「もやいすと」とは

本学では、「地域に生き、世界に伸びる」をスローガンに掲げ、地域に根ざしながら世界を見据える人材の育成に努めています。その人材養成の目的を表す概念として、「もやいすと」という用語を用いています。この「もやいすと」の「もやい(舳い)」とは、もともと船を相互に繋ぐことを意味し、人と自然と地域社会とを再構築する「もやい直し」という言葉に由来しています。

国際教育(学部学生対象)



「もやいすとグローバル育成プログラム」とは

グローバルな視点を持ち、地域課題に柔軟に対応できる能力を養うプログラムです。
1年次から4年次までの体系的な学びとグローバルな視点を持つための海外留学等を提供し、世界でも活躍できる学生を育成します。

※1 地域志向科目…熊本に関する内容(文化、自然、社会等)を含む科目、地域課題を内容として含む科目のいずれか一つ、もしくは複数に該当する科目
※2 「もやいすとシニアGlobal」・「もやいすとスーパー Global」…もやいすとグローバル育成プログラムにおける活動を一定の基準に沿って評価、認定します
※3 グローバル科目…外国語能力の向上や国際理解・異文化理解を深める科目

※4 Japan Studies科目…日本や熊本の文化、文学、環境、社会等に関する内容を英語で学ぶ科目
※5 「もやいすとグローバル育成プログラム」に参加するためには、2年生前期までにTOEIC®550点以上を取得している必要があります



もやいすとグローバル育成プログラムQ&A

1 どんな能力を身に付けることができますか

- ① コミュニケーション能力（語学力・情報発信力）
- ② 主体性・積極性、チャレンジ精神、協調性・柔軟性、責任感・使命感
- ③ 自国文化・異文化に対する理解

2 プログラムへの参加要件はありますか

2年次後期以降のもやいすとグローバル育成プログラム参加者専用の科目を履修するには基準の英語力（TOEIC®550点）が必要です。「TOEIC®で550点取れるかな？」と不安な方も大丈夫！1年次後期の授業「Moyaist Global Entry Training」でプログラムに参加するための準備をサポートします。

3 参加学生にはどんなメリットがありますか

- (1) プログラム参加学生のために用意された科目を履修することで、自国文化・異文化に対する理解を深め、英語運用能力の向上を目指すことができます。
- (2) プログラム参加学生のみ海外インターンシップや海外ボランティア等を行う「グローバル実践活動」の履修が認められ、経済支援を受けることができます（プログラム参加費のうち2分の1の額の助成金、上限10万円）。
- (3) もやいすとグローバル育成プログラムにおける履修状況等を一定の基準に沿って評価し、「もやいすとシニア Global」・「もやいすとスーパー Global」として認定し、もやいすとグローバル認定証を授与します。認定証は就職活動等で在学中の活動をアピールする際に役立てることができます。
- (4) 在学中に交換留学や海外インターンシップ・ボランティア等を行う場合、語学力向上のための支援や留学相談等のサポートを受けることができます。
- (5) 全学部を学生を対象としたプログラムであるため、学部の垣根を超え、海外に興味のある仲間と授業等を通して出会い、切磋琢磨しながら自分の夢に向かっていくことができます。

4 プログラムで身に付けられる英語力は

「もやいすとシニア Global」として認定されるためにはTOEIC®650点、「もやいすとスーパー Global」として認定されるためにはTOEIC®730点が必要です。ただし、このプログラムでは英語力だけでなく、1に挙げた①コミュニケーション能力、②主体性・積極性、チャレンジ精神、協調性・柔軟性、責任感・使命感、③自国文化・異文化に対する理解を身に付けることも重要です。

5 卒業後の進路は

国際展開している（しようとしている）熊本県内の企業や自治体等に就職し、グローバル人材として活躍するなど将来の熊本県の振興・発展に貢献してほしいと考えています。さらに、大学院に進学し、地域社会の国際化をリードしていくため、高度グローバル人材となるための国際協力・貢献活動を組み込んだ大学院教育を受けることもできます。

もやいすとスーパーGlobalとして令和5年度(2023年度)に認定を受けた学生からのコメント



総合管理学部総合管理学科4年
徳永 咲希さん
(熊本県立熊本高校出身)

このプログラムで身に付けた主体性と行動力は一生ものだと自負しています。このプログラムに参加した目的は、外国人の友達を作るためでした。

3年間で得た経験の中で、海外インターンでの国際協力活動や他国大学との交流、世界で活躍されているの方々による参加型の講義が殊に学びの多い時間でした。プログラムで得た知見を生かし積極的に国際交流や海外渡航に挑戦する中で、言語上では外国語コミュニケーションを楽しむことが一番だと実感しました。私の成長の端緒となったこのプログラムを強くおすすめします。



文学部英語英米文学科4年
東 梨乃さん
(鹿児島県立加治木高校出身)

私は大学生活において、座学だけでは学べない実践的な英語を習得したいと思い、もやいすとグローバルのプログラムに参加しました。プログラム内の様々な授業やカンボジアでのインターンシップを通して、主体性やチャレンジ精神を身に付けることができましたと実感しています。特に、カンボジアに約1ヶ月滞在して行ったインターンシップでは、現地の方々と英語でコミュニケーションをとりながら、国際交流に携わることができ、貴重な経験になりました。



県大から「世界」へ

◆出席者
澤田 梨加 (文学部日本語日本文学科)
徳永 咲希 (総合管理学部総合管理学科)
中村理加子 (文学部英語英米文学科)
森 涼桜 (総合管理学部総合管理学科)
東 莉乃 (文学部英語英米文学科)
※欠席者 横尾小百合 (文学部英語英米文学科)

座談会

海外インターンシップ経験から得た実践力

2020年度にスタートした「もやいすとグローバル育成プログラム」の参加学生の中から、2022年9月、3年生6人がカンボジアの政府機関・民間企業・NGOでインターンを経験しました。今回、5名の参加者が、現地で体験したことや感じたこと、後輩たちに伝えたいことなどを語り合いました。

異文化の中で試された柔軟性と主体性

東 私の受入先は「カンボジア日本人材開発センター」(CJCC)。カンボジアと日本の文化・教育交流の場や、カンボジアでの日本語プログラムなどを提供している機関です。そこで、日本へ留学したい大学生向けのイベント運営に携わり、サイトやポスターづくり、SNS発信などに関する業務を行いました。

森 私と中村さんは、エコロギを加工販売する企業「エコロギー」で、妊婦の栄養改善プロジェクトに携わりました。1週目は約60軒の病院にメールを送り、連絡が取れた病院を直接訪問して、妊婦の栄養状況について調査しました。消費者に突撃インタビューも行いました。エコロギー社の商品を食べた感想を聞かせてもらったりしました。2週目は、タケオにある加工工場や養殖農家を見学し、最終週にはイベント開催のミッションがあり、油を使わないエコロギー社のエコロギを食べてもらった時、「おいしい」「欲しい」と言われたことが興味深く、試食イベントを実施しました。

徳永 私は、国際協力NGO「FIDR」(ファイダー)で、カンボジアの子どもたちの栄養環境や教育環境を改善するプロジェクトに参加しました。彼らに日本のごみ処理環境を紹介すること、学校給食を例に日本の栄養環境を紹介して生かしてもらうというプレゼンを行いました。現地の学校へ足を運び、ごみのポイ捨てや校内に保健室がない実態も調べました。ただ、新型コロナに感染して、1週間ほど活動を中断。お世話になった部署のプロモーション動画を制作するという最後のミッションがあったため、帰国後もFIDRとやり取りしながら、先日ようやく完成させました。ものすごく達成感がありました。

澤田 私がお世話になったのは「WonderLab」(ワンダーラボ)という会社。教育アプリを開発して、教育格差を少しでも改善しようとしている企業です。滞在中は、教育アプリ「Think!Think!」の導入校や塾の見学のほか、子どもたちと保

護者、先生にICT教育についてインタビューして、それらをまとめて発表しました。6つの公立小学校でICT教育についてインタビューし、1校では折り紙の授業も行いました。目の当たりにしたのは、中心部と地方の子どもたちに英語力の差があること。でも、地方でもICT教育が進んだ学校の子もたちは、中心部と同じアプリで楽しく勉強していました。日本はICT教育が遅れているので、学ぶことがあるなど実感しました。

カンボジアでの体験から後輩へ伝えたいこと

森 昨日、「治安が不安」と言っていてインターン参加を迷う後輩に会ったんです。私も同じように悩んだからこそ、「まずは挑戦して!」と背中を押してあげたい。想像していた何倍も、いい経験だったから。普通の海外旅行と違って、現地で活動する日本人の人生を知る機会にも恵まれました。

澤田 私は、仲間がいることが心強かった。行ってみないとわからないこともたくさんあるし、色々なことを知るためにチャレンジは大事だから、ぜひ。

中村 楽しかったけど、私は人に話しかける事が苦手で、受入先で与えられたミッションが結構つらかったです。でも、それを乗り越えて帰ってくることができました。後輩の皆さんにもう一つ。海外キャッシングはできるようにした方がいい。現地で現金が無いと何もできません(苦笑)。

東 こんなに自分から動かないといけなかったことを、これまでやったことがありませんでした。3週間、仕事はもちろん、休日の計画なども自分で考えて行動できたなと感じています。

徳永 英語を使いながら働いて、異文化を学ぶこともできました。インターンは、先生や大学、受入先が準備してくれたもの。そうした方々へのリスペクトと共に、自分は受入先でどのように貢献できるか、目的と主体性を持って参加してほしい。きっといい経験になると思います。

※春秋彩vol.58から一部抜粋

国際教育(大学院生対象)

高度グローバル人材育成

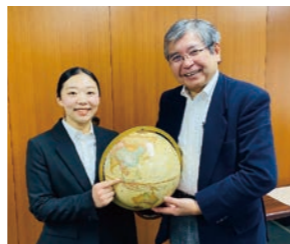
令和元年度(2019年度)において、JICAと熊本県が締結した「熊本県と独立行政法人国際協力機構との連携協定」に県の発展に貢献する人材の育成が盛り込まれたことなどを踏まえ、本学ではグローバル人材育成を積極的に推進し、学部教育だけでなく、大学院教育においても、海外体験(国際協力・貢献活動)と大学院の専門教育を実施し、熊本のグローバル化に貢献できる人材の育成に取り組むこととしています。大学卒業後は、熊本県内の企業、行政機関等に就職し、熊本のグローバル化をリードする人材として活躍し、地域の振興・発展に貢献することが期待されます。

国際協力・貢献活動を終えた方

- 令和元年度(2019年度)に概ね2年間の国際協力・貢献活動の経験がある方のための入試制度として、社会人特別選抜(国際協力枠)※1を創設しました。
- 国際協力・貢献活動の体験を活かしたキャリア形成として、大学院博士前期課程で2年間専門教育を受けます。
 - ※1 出願に当たっては、あらかじめ指導を希望する教員と相談が必要です※2。また、事前にご相談頂ければ、研究室訪問も可能です。ご興味があれば、国際教育交流センターまでご連絡ください。
 - ※2 研究者情報 <https://www.pu-kumamoto.ac.jp/research/researcher/>

これから国際協力・貢献活動を体験したい方

- 大学院在学中に国際協力・貢献活動を体験し、卒業後は高度グローバル人材として活躍することを目指す方のための大学院教育です(令和2年度(2020年度)開始)。
- 講義の履修や国際協力・貢献活動、学位論文作成等、3年間の※3専門教育を受けます。
- 令和4年度(2022年度)からJICAとの連携により、派遣前トレーニングを経てタイ等に1年間海外協力隊員として派遣され、「環境教育」、「コミュニティ開発」、又は「日本語教育」のいずれかの職種の活動に取り組むことが可能になります(ただし、現地の受入れ機関との調整や治安情勢等により、変更の可能性があります)。
 - ※3 必要に応じて4年間で限度として延長を認めます。修学年限を3年間又は4年間とする場合は、長期履修制度が適用されます。なお、長期履修制度が適用されると、授業料の総額は、博士前期課程では2年間分と同額になります。また、年額は、総額を長期履修が認められた期間の年数で除した額になります。



令和6年(2024年)2月からインドネシアに派遣のアドミニストレーション研究科 弥永さんと堤学長

優遇措置

- 入学者は入学金が半額免除となります。
- 大学院で奨学金を利用した方が、卒業後に熊本県内に就職した場合、奨学金返還に対する支援※4の対象となることがあります。
 - ※4 「ふるさとくまもと創造人材奨学金返還等サポート制度」による支援となります。<https://www.kumakatsusupport.pref.kumamoto.jp>



よくあるお問い合わせとご回答



①派遣国・活動場所は?

JICAによる選考を経て、タイ、インドネシア、ベトナム、カンボジアなど東南アジアの国を想定しています(派遣予定国の事情等により変更することがあります)。

②海外インターンシップと違う?

JICA協力隊は、途上国政府の要請に基づき、「途上国の人々のために貢献したい」方を派遣する公的な海外ボランティア事業です。

③JICA協力隊に英語は必要?

派遣地域によりますが、概ね「英検3級」或いは「TOEIC®330点以上」で応募可能です。ただし、大学院入試への合格には一定程度の英語力が求められます。

④派遣地域の治安は?

JICA海外協力隊は、隊員が活動可能な国・地域にしか派遣されません。また、JICAが安全情報提供、住居防犯対策、通信連絡手段の確保、緊急事態への対応などの対策を十分講じたうえで派遣を行います。

⑤研究活動との両立はできる?

海外活動中の研究は、指導教員と相談のうえ進めていただきます。大学で行える研究期間は2年弱となりますので、十分な準備のうえ計画的に研究を進めていただく必要があります。

⑥学費は3年分支払うのですか?

長期履修制度を利用することで、2年分の授業料で3年間の博士前期課程に所属できます。また、高度グローバル人材育成プログラムの入学者は入学金が半額免除になります。

大学院の概要

文学研究科(博士前期課程)(博士後期課程)



日本語日本文学、英語英米文学について教授・研究し、地域ならびに国際社会の進展に寄与することを目的として、平成5(1993)年4月に日本語日本文学専攻と英語英米文学専攻の2専攻から成る文学研究科修士課程を設置しました。これを改組して、平成20(2008)年度より日本語日本文学専攻、平成22(2010)年度より英語英米文学専攻に博士前期課程・博士後期課程を設置しました(英語英米文学専攻博士後期課程は2024年度より募集停止)。文学研究科では、それぞれの専攻分野に関する優れた研究能力と専門的職業に必要とされる高度な適応能力の開発を目標としています。深い専門性の追求を通して人間としての叡知を磨き、真贋を見分ける洞察力を培うことで、地域および国際社会の中核となる人材の育成を目指しています。探究心豊かな研究者の養成、高度な専門的知識と創造的な教授能力を備えた中学校・高等学校教員の養成の場として、また、広くは社会人のための再教育の場として、有能な人材を世に送り出すとともに、海外からの優秀な留学生を積極的に受け入れています。また、国内外における日本語学習の需要に応えて、専門家を育成しています。

社会人の受入を効果的に進めるため、昼夜開講制も実施しています。中学校、高校教諭一種免許状(国語、英語)を有している方は専修免許状を取得することができます。

環境共生学研究科(博士前期課程)(博士後期課程)



環境共生学部の理念を継承し、さらに総合的、かつ高度の展開をはかるために平成15(2003)年度に修士課程を、平成17(2005)年度には博士後期課程を設置するとともに、修士課程を博士前期課程としました。博士前期課程では学部の3専攻における教育を基礎として、さらに発展させるために2領域4分野を配置しています。これらの4つの研究分野が相互関係を重視しながら「環境共生学」を広く学び、深く研究することを目指しており、現在まで多数の優れた人材を社会に送り出しています。博士後期課程においては、4分野を一つに集約するよう教育の再編成を行い、それぞれの立場から深く研究を行い、「環境共生学」を確立します。平成20(2008)年3月に、初めての博士(環境共生学)が誕生して以来、多数の博士号取得者を輩出しています。

環境共生学研究科の特徴は(1)学部教育を基礎として、総合・発展させた教育研究、(2)フィールドワークを重視した教育研究、(3)実践能力を育成するカリキュラム、(4)社会人が学びやすい昼夜開講制度、(5)充実した研究設備、などが挙げられます。

中学校、高等学校教諭一種免許状(理科、家庭)を有している方は、専修免許状を取得することもできます。

アドミニストレーション研究科(博士前期課程)(博士後期課程)



わが国で初めての、アドミニストレーションを研究対象とする大学院で、博士前期課程と博士後期課程を設置しています。

博士前期課程では、公共・経営、ビジネス、情報、看護の4分野を配置し、多方面からアドミニストレーションの基本概念的な修得を目指し、地域社会の要請に応え得る問題発見・解決型の教育研究を実践しています。

博士後期課程では、社会のさまざまな分野で生じる諸課題を高度な知識と判断力によって多角的・総合的に解決するための教育研究を実施するとともに、アドミニストレーションの理論をより一層深化発展させることによって、課題解決の適切さと確実度を高める教育研究を実践しています。










また、社会人に対する高度なりカレント教育の要請に応えるために、昼夜開講制を実施しています。

中学校教諭一種免許状(社会)及び高等学校教諭一種免許状(公民)を有している方は、専修免許状を取得することもできます。

国際交流

海外留学・研修

本学では、現在、右記の16の大学等と協定を締結し、本学学生の派遣や、協定校の学生受け入れ等を行っています。

学生交流協定校	 モンタナ州立大学ビルングス校(アメリカ)  祥明大(韓国)
学術交流協定校・機関	 モンタナ州立大学ボーズマン校(アメリカ)、チャタム大学(アメリカ)、モンタナ大学(アメリカ)  海洋大(韓国)、ソウル市立大(韓国)  フライラック大学(タイ)、カセサート大学(タイ)  広西大学(中国)、海南省疾病予防管理センター(中国)  台北科技大学(台湾)、開南大学(台湾)、中原大学(台湾)  プラウイジャヤ大学(インドネシア)  デラサール大学CIESOL(フィリピン)

交換留学

単位互換及び授業料相互不徴収を内容とした留学制度を利用して、本学に在学したまま祥明大(韓国)には10ヶ月間、モンタナ州立大学ビルングス校(アメリカ)には9ヶ月間の留学ができます。本学在学中の学部学生であれば、誰でも応募することができます。ただし、モンタナ州立大学への留学の場合は、TOEFL® iBTスコア68点相当が必要です。留学先で修得した単位は、科目により学部教授会の承認を得て単位認定されます。

- 募集時期 祥明大/6月頃 モンタナ州立大/10月頃
- 派遣時期 祥明大/3月~12月 モンタナ州立大/9月~翌5月



韓国・祥明大



アメリカ・モンタナ州立大学ビルングス校

短期語学研修

祥明大(韓国)には1週間の文化研修に、モンタナ州立大学ビルングス校(アメリカ)には1ヶ月間の語学学習と文化体験を目的とした語学研修に参加でホームステイを通じて海外の文化や習慣を経験することができます。また、令和6年(2024年)からタイのカセサート大学に2週間の文化・語学研修をスタートしました。

- 募集時期 祥明大/7月頃 モンタナ州立大/10月頃 カセサート大/10月頃
- 派遣時期 祥明大/9月中旬 モンタナ州立大/2月中旬 カセサート大/2月下旬



祥明大での短期文化研修



モンタナ州立大での短期英語研修

留学支援

- オフィスアワーを利用して、留学経験のある教員に留学等の相談をすることができます。
- 海外協定校への留学を希望する学生に対し、留学制度や奨学金の説明会を実施しています。留学経験のある学生に話を聞くこともできます。
- 留学を希望している学生に対し、海外の大学での授業や生活についてのアドバイス等を行う「留学対策講座」を開講しています。
- 学生交流協定に基づき派遣される交換留学生については、「短期派遣留学生支援奨学金」を、文学部英語英米文学科の一定期間以上の留学・研修を行う学生に「小辻梅子奨学金」を支給しています。
- 海外への留学・研修を行う学生(後援会会員のみ)に期間に応じた助成金を支給しています。



留学生との交流

留学生との交流会

Global Loungeでは学生のみなさんに異文化理解や語学学習の機会を提供することを目的に留学生との交流や世界各国の紹介等をCafé Eventとして月に数回開催しています。



インターナショナルフェスティバル



留学生と阿蘇ツアー

短期語学研修団の受け入れ

祥明大、カセサート大学から語学学習や文化体験等を目的とした研修団を受け入れ、本学の学生との交流を行っています。



祥明大からの研修団



カセサート大からの研修団

国際交流団体の受け入れ

内閣府の事業や非営利活動法人等の国際交流団体を積極的に受け入れ、世界各国の学生との国際交流を行っています。



香港理工大との交流



NPO「World Campus」との交流

熊本県立大学における海外留学・研修制度について

名称	内容	期間	費用の目安
モンタナ州立大学ビルングス校 (MSUB) Winter ESL Program (冬期英語研修) (アメリカ)	1ヶ月間の語学学習と文化体験を目的とした語学研修に参加できます。ホームステイを通じて海外の文化や習慣を経験することができます。	2月下旬～3月下旬 (1ヶ月間)	約80万円 (プログラム料金35万円程度、渡航費(30万円前後)等)
祥明大 短期研修 (韓国)	ホームステイなどを通して韓国の日常生活を体験。祥明大の学生と交流しながらの韓国語研修、百済文化探訪、ソウル市内研修等を行います。	9月中旬 (1週間)	約8万円 (航空費、海外危機管理サービス会費・保険料等)
モンタナ州立大学ビルングス校 (MSUB) 交換留学 (アメリカ)	単位互換及び授業料相互不徴収を内容とした留学制度で、本学に在学したまま留学ができます。本学在学中の学部学生であれば、誰でも応募することができますが、TOEFL® iBTスコア68点相当が必要。留学先で修得した単位は、科目により学部教授会の承認を得て単位認定されます。	9月～翌5月 (9ヶ月間)	約120万円 ※本学授業料除く 渡航費：往復 約30万円、寮費+食費 約70万円、海外危機管理サービス会費・保険料 約15万円、教材費、手数料、使用料、雑費等。ビザ申請や予防接種の費用等
祥明大 交換留学 (韓国)	単位互換及び授業料相互不徴収を内容とした留学制度で、本学に在学したまま留学ができます。本学在学中の学部学生であれば、誰でも応募することができます。留学先で修得した単位は、科目により学部教授会の承認を得て単位認定されます。	3月～12月 (10ヶ月間)	約50万円 ※本学授業料除く 渡航費：往復約10万円、寮費 年間約20万円、海外危機管理サービス会費・保険料 約15万円、教材費、手数料、使用料、雑費、ビザ申請や予防接種の費用等
カセサート大学 短期研修 (タイ)	カセサート大学 (バーンケンキャンパス) の寮に滞在し、文化体験やタイ語研修等を通してタイの社会・文化に触れるとともに、学生同士の直接対話を通して相互の交流を深めることを目的としています (令和6年(2024年)から新しくスタートした研修です)。	2月下旬～3月初旬 (2週間)	約20万円 (航空券、食費、移動費 (日本国内、空港～大学間)、海外危機管理サービス会費、保険料等)
デラサール大学 CIESOL オンライン留学 (フィリピン)	英会話やベーシックビジネスイングリッシュなど、クラス分けテストにより自分のレベル (12段階) に応じた効果的な英語学習ができます (Global Languagesの単位認定対象となる可能性あり)。	9月 (3週間)	約5万5千円
グローバル実践活動 (もやいとグローバル育成プログラム) ※参加にTOEIC®550点以上が必要	海外インターンシップ、海外ボランティア等の実社会との接点から学びを得る学修活動。大学で用意しているプログラムとしてはカンボジアの政府機関や民間企業、NGOで約3週間、実習実践活動 (インターンシップ) に参加できます。学生が自ら企画・提案することもできます。	9月 (3週間)	約20万円 (航空費、宿泊費、海外危機管理サービス会費・保険料等)
開南大学 夏期中国語/英語・台湾文化研修 (台湾)	中国語または英語の授業と台湾文化を体験。語学学習だけでなく、台湾市内の散策やパイナップルケーキ作り体験を通じて、台湾の文化をじっくり楽しめる13日間です。現地チューターによる課題の添削や、発音練習などのサポートを受けることができます。	8月中旬～下旬 (13日間)	約16万円 (研修費用と自己負担額の合計) ※授業料は免除 渡航費：研修費、海外危機管理サービス会費・保険料、航空費、食費、自由時間中の娯楽費・交通費
SAF*留学 (アメリカ、イギリス、カナダ、アイルランド、オーストラリア、ニュージーランド等) *SAF (Study Abroad Foundation) …2000年に設立された米国インディアナ州認可の非営利教育機関	SAF大学ネットワークに加盟の欧米やオセアニアの約50の大学の中から留学プログラム (2週間の短期プログラムやサマーセッション、1年の長期留学など) を選ぶことができます。	2週間～1年間	プログラムによる ※費用については、為替レートにより変動する可能性があります。

● 学生交流協定に基づき実施される短期研修・交換留学等については、「短期派遣留学生支援奨学金」を、文学部英語英米文学科の一定期間以上の留学・研修を行う学生に「小辻梅子奨学金」を支給しています。また、「グローバル実践活動」についてはプログラム参加費のうち2分の1の額の助成金 (上限10万円) を支給しています。
● 海外への留学・研修を行う学生 (後援会会員のみ) に期間に応じた助成金を支給しています。

● 海外の大学等で履修した外国語に関する授業科目について修得した単位で、本学の基準を満たした場合、「Global Languages I・II」の単位とすることができます (2023年以降入学の全学部の学生対象)。
● 英語英米文学科では、協定校への留学、もしくはSAF (Study Abroad Foundation) のプログラムについて、本学の基準を満たした場合、「Studying Abroad I・II」の単位とすることができます (2022年以降入学の英語英米文学科の学生対象)。
● 休学中 (ワーキングホリデー等) におけるプログラムの参加は単位認定とはなりません。
● 状況に応じて、各プログラムは中止や延期、もしくはオンラインでの実施に変更となることがあります。

2024年3月現在

語学教育支援

Global Loungeってどんなところ?

Global Loungeでは、楽しみながら語学を学ぶことができます。国際教育交流コーディネーターが常駐しており、学生のみさんの語学力に合った様々な支援を受けることができます。また、語学学習に役立つ様々な教材や機材 (書籍、DVD、ゲーム、iPad、パソコン等) を利用できます。さらに、海外をテーマにしたイベントも定期的に開催しています。

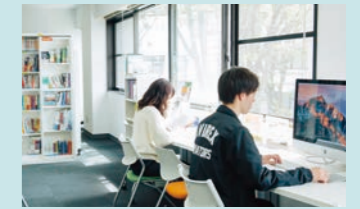
楽しく快適に語学が学べる環境



各種デバイスをディスプレイに接続して、卒論発表の練習や勉強会に活用できます。



ディスカッションやグループ学習など活用方法は自由自在です。



異文化に触れるために外国の映画やドラマをDVDやBlu-rayで鑑賞することができます。



iPadやノートパソコンの貸出を行っています。iPadのアプリやe-learningを使って、語学学習ができます。



各種語学検定 (TOEIC®、英検等) 関連書籍、洋書、英字新聞・雑誌の貸出を行っています。



留学生による英語、中国語及び韓国語講座を定期的に開催しています。

Café Eventで海外を身近に感じる

学生のみさんに異文化理解や語学学習の機会を提供することを目的に、留学生との交流や世界各国の紹介等をCafé Eventとして定期的に開催しています。イベント情報は、学内掲示板のほか、学生ポータルサイトの国際教育交流センター (CIEE) でお知らせしています。



TOEIC®IPの実施

TOEIC® (Test of English for International Communication) は、英語によるコミュニケーション能力を幅広く評価する試験で、その成績は就職活動や本学のもやいとグローバル育成プログラムに参加する際に重視されます。本学では、後援会との共催で団体特別受験制度 (TOEIC®IP) を年2回実施しています。

英語e-learningシステム

本学では、学生のみさんの英語能力向上を図るため、自律学習を支援するe-learningシステム (ALC NetAcademy NEXT・EnglishCentral) を導入しています。英語のリスニング力強化や語彙力増強に役立てることができます。

モンタナスペシャル



MSUBの先生をお招きして、過去の出来事を思い出して線や色を用いて表現するワークショップ等を開催しました。

JICA青年海外協力隊とのコラボカフェ



定期的にJICAとのコラボによりCafé Eventを実施しています。元隊員の方から、海外での国際貢献活動の体験を共有いただき、意見交換を行っています。

クリスマスパーティ



留学生が母国のクリスマスについて紹介した後、ゲームやプレゼント交換を楽しみました。

常駐コーディネーターが英語力UPをサポート

●英語チュータリング

マンツーマンまたは小グループで1セッション30分の英語チュータリングを予約制で実施します。各自のニーズに応じた指導を行います(英会話、論文・プレゼン・面接の準備、語学学習アドバイス等)。

●ランチタイム英会話

ランチを持ち寄り、気軽に英会話を楽しみましょう。シチュエーション別英会話では空港や入国審査、レストラン等のシチュエーションを想定して必要な表現を学ぶことができます。

●グローバルダイアログ

外国人留学生と日本人学生が、さまざまなテーマについて意見を交わしながら相互理解を深めます。

●ブカレスト大学日本語学科とのランゲージパートナーズプログラム

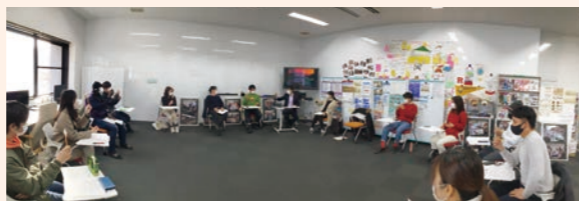
日本語を学びたいルーマニア人学生と英語を学びたい本学学生がオンラインで、一対一またはグループで語学を通して自由に交流を行います。

国際教育交流コーディネーターからのメッセージ

There is something special in all of us, regardless of age, gender or nationality, but somehow most of us are not aware of, or are having a hard time identifying our strongest points. The sooner we are aware of our strengths, the greater the chances of achieving success. It is my goal to help you find the best in you and to support you in building your own path to success.

International Education & Exchange Coordinator

Viorel Ristea



英語チュータリング 受講生の声

文学部の学生

- 英語を話すことに自信が持てるようになり、国際交流イベントに積極的に参加するようになりました。Global Loungeを利用することで、留学などの様々な情報を得ることができました。TOEFL® ITPの点数が上がり、英検準一級に合格しました。
- トピックに関して、自分の中に当たり前のようにある考えに対してwhy?を突き詰めて聞かれることで、ぼんやりとした考えが言語化され、自己理解を進める場にもなりました。



環境共生学部の学生

- セッションがいつも楽しくて、英語で会話をすることに慣れてきました。また、学習方法の改善点が見つかってよかったです。
- 週2~3回ほど、授業の空きコマでチュータリングを利用しています。中高生のときは英語が苦手でしたが、チュータリングのおかげで少しずつ理解できるようになり、英語が好きになりました。

総合管理学部の学生

- 進路決定に大きく役立ちました。自分は何をしたいのか、チュータリングを通して鮮明になったことは印象深いです。大学の友人や家族とは異なる視点からのアドバイスを先生から頂けてとてもありがたかったです。
- 最初は全く英語が聞き取れませんでした。マンツーマンで自分のレベルに合わせて学習ができたので、自分の意見を話せるレベルにまで成長できました。TikTokでの海外の投稿の内容が理解できたり、海外旅行で店員さんと話せたりした時にリスニングとスピーキング力が上がったことを感じました。



熊本県立大学 学内案内図

